

世界獣医師会大会 (WVAC) 東京大会 開催が近づく！

■ WVAC2026 東京大会のテーマと コンセプトについて

いよいよ大阪万博が始まりさまざまな意味で世の注目を集めておりますが、世界獣医師会大会2026（東京大会）も負けてはいられません。今回は大会が目指す内容、方向性についてお話をさせていただきます。

まずテーマですが、「ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来」となりました。日本にいながらにして世界の獣医療の最先端に触れる機会であることはもちろんなのですが、日本で開催するに当たり何をテーマとして訴えていくのかを考えたとき、やはり中心は藏内会長が10年以上前から提唱し、活動している「ワンヘルス」ということになりました。

動物と人の健康そして環境の健全性を一つのものと捉え、不確実性を増すこの地球で最善の道を探ろうとするワンヘルスアプローチこそ、われわれ獣医師が専門家として世の中に貢献するうえでの基盤になるものだと考えています。ペットや家畜の健康にも、人の公衆衛生にも、豊かな環境の象徴である野生動物にも関わる専門家は獣医師をおいて他にありません。

狂犬病やCOVID-19、コロナウイルスなどの伝染性疾病や、耐性菌問題、さらには家畜がもたらす環境への負荷、野生動物の生息域と人間の生活圏が重なることにより生じるさまざまな問題など、医師や環境の専門家とともに細分化された分野を乗り越えて横断的に取り組むことが必要な問題はわれわれの目の前に山積しています。

こうした大きなテーマのもと、後世に語り継がれる大会を作り上げていくために、具体的には以下のような取組を進めていきたいと考えています。

1 医療、環境などの専門家による分野横断的な参画

「世界獣医師会大会」だからといって、獣医師のためだけの大会にするつもりはありません。愛玩動物看護師の皆さまや、家畜人工授精師、装削蹄師といった獣医療に関わる皆さまはもちろん、医師や環境の専門家とともに地球の未来を考える大会にしたいと考えています。ワンヘルスがテーマなので、まあ当然といえば当然です。

現在のわれわれを取り巻く課題は獣医師だけでは解決できないものばかりです。ワンヘルスについて WOA（国際獣疫事務局）、WHO（世界保健機関）、FAO（食糧農業機関）そして UNEP（国連環境計画）が4者共同でアクションプランを発表していることが端的に示すように、獣医師には専門家としてその専門性を専門領域外との連携の中で発揮することが求められています。

2 動物と人の共生価値の再創造

本大会を動物、特に犬などのペットを飼うことがもたらしてくれる価値について多様な角度から改めて見直す機会にしたいとも考えています。高齢化社会やそれに伴う医療費の増加といった社会の課題に対して獣医師がどのようなアプローチで貢献していくのか、また、ペットと共に暮らす生活にはどのような価値があるのか、といったことを改めて深堀していくことで、動物にとっても人にとっても、より健康な将来を創り上げていくきっかけにしたいと考えています。

3 日本の知識・技術を世界に示す

「世界獣医師会大会」が日本にやって来ることなので、自然な流れとして世界から日本という方向性になりがちなのですが、せっかく日本の東京で開催するので、しっかりと日本から世界という方向性も意識していきたいと考えています。

言葉の壁もあり、日本の優れた知識・技術の中にはまだまだ世界に知られていないものも多いといえるのではないのでしょうか。その中でも特に、日本は多くの自然災害を経験し、かつ、それを乗り越えてきた歴史がありますので、「ワンヘルス」という大きな考え方のもと、直接動物の医療に関係するものから、環境や災害復旧・復興に至るまでの幅広い日本の技術や知識を世界に向けて発信することができれば、大阪万博を（部分的にでも）超えられるはずと信じています。

4 若者・学生への積極的なアプローチ

ワンヘルスの考え方は次世代に対する責任を明確に意識することでもあると考えています。そうした意味で若者・学生の皆さまにより多く加わっていただき、一緒に将来を考えていくことは非常に重要です。学生の皆さまには通常とは異なる登録料を設定する、スタッフとして大会の運営に協力いただくなどにより、ひとりでも多く東京国際フォーラムに足を運んでいただけるように取り組みます。

また、日本獣医師会ではアジアの若手獣医師を対象に、日本の獣医系大学で研修を受けていただく事業に長年に渡り取り組んでおり、その卒業生の数は200名を超えます。各国で要職を務める方や、フィールドで才能を発揮する方などその活躍分野は広く深いものですので、本大会をこうした卒業生の力を結束させる契機として、これまでにない、アジアの畜産に根差した活力あるネットワークの構築を進めていきたいと考えています。

5 ジェンダーバランスへの配慮

日本の獣医学生は約6割が女性です。しかしながら、女性の教授の割合はなんと1割にも満たない6.6%となっています（2024年、日本獣医師会調べ）。

日本の人口は減少が進んでおり、2070年には9,000万人を割り込み、65歳以上が占める率（高齢化率）は39%にまでなると想定されています（厚生労働省ウェブサイトより）。当然の結果として労働人口も減少することから、女性の皆さまにその能力をより積極的に社会で活かしていただくことは、さまざまな社会問題に対処していく

うえで不可欠です。多くの先進国が今後人口減少の局面を迎える中、日本の行く末は世界の将来を占うものとしても重要と考えています。イーロン・マスクもきっと注目しています。ちなみに2024年には中国の人口も減少に転じています。

今回の世界獣医師会大会2026（東京大会）では、女性の登壇率を30%以上にすることを目標に掲げています。将来は半数を超えることが確実な日本の女性獣医師が今後さらに活躍するための道筋をより太いものにする取組も、大きな意味で人類の健康・未来に貢献するものといえるのではないのでしょうか。

6 東京宣言（仮）の発出

今回の世界獣医師会大会がワンヘルスをコンセプトから活動に移していくための礎石になること、より実践的な取組を推進するためのきっかけになること、それが関係者の共通の願いですので、なんとかして形にしたいと企んでいます。現段階でお知らせできるものはまだ少なく白紙状態です。

これからこの記事を読んでいただいている皆さまを含む多くの関係者のお考えをいただきつつ、未来の子どもたちに感謝してもらえるような宣言を作り上げていきたいと考えています。

世界獣医師会大会2026（東京大会）が目指す方向性についてお話してみましたが、この中に少しでも気になるものがありましたら、ぜひ行動に移して発表者あるいは参加者等として、この大会と一緒に作り上げていきましょう。

行列ができる人気のテーマパークはほぼ毎日営業していますが、世界獣医師会大会が国内で開催されるのは数十年に1度です。皆さまにはこの貴重な機会を逃すことなく、ぜひ積極的に取組の輪の中に加わって、未来を変える力になっていただきたいと考えております。

第41回世界獣医師会大会開催概要

大会日程：令和8年4月21日(火)～24日(金)

開催場所：東京国際フォーラム

公式ホームページ（随時更新します!）：

<https://wvac2026-tokyo.com>